

# 渦巻く縁台 ~uZoo uZoo~

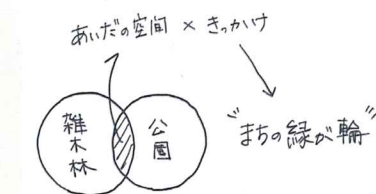


## 1. 公園と雑木林のあいだ。「縁が輪」の生まれる場所

ひょうたん島を散策していく中で、公園のように整備されてなく、かといって雑木林のように野ざらしになっていない、公園と雑木林のあいだのような空間が印象に残った。ベンチだけが無造作に置かれ、人と人、自然との対話はそこにはみられなかったが、自然の奥行きと、不思議なパワーを感じた。



しかし思い返せば、ブルーシートとお酒を用意するだけで、大勢の人たちを引き入れるお花見会場になり、虫取り網と虫かごを用意するだけで優しく子供達を包む冒険の森となるように、あいだの空間は一人一人の場所として、確かに記憶に残っている。



あいだの空間は、小さなきっかけによって、人と人、人と自然が再び心通わせるような、「まちの縁が輪」になりうる可能性を秘めているのではないかと。

## 2. 万物の力を引き出す渦の力

「唐草の風呂敷で物を包む。すると渦の力が物にう移る。物に宿る内力が目覚め、物が心を持ち始める。」【杉浦康平（日本のかたち・アジアのかたち）】



渦は、単なる模様であることを超えて、人の心と物の心と結びつける。求心と遠心、終わりの無い幾何学模様、私たちは無意識に魅了される。鳴門の渦潮がそうであるように。



日本、引いてはアジアが古来から信じた「聖なるかたち」によって、ウィズコロナの、新しい人々の能動性を引き出すことはできないだろうか。人と自然が渦巻き、豊かな関係性が紡がれていくような多世代にとっての居場所を作れないだろうか。

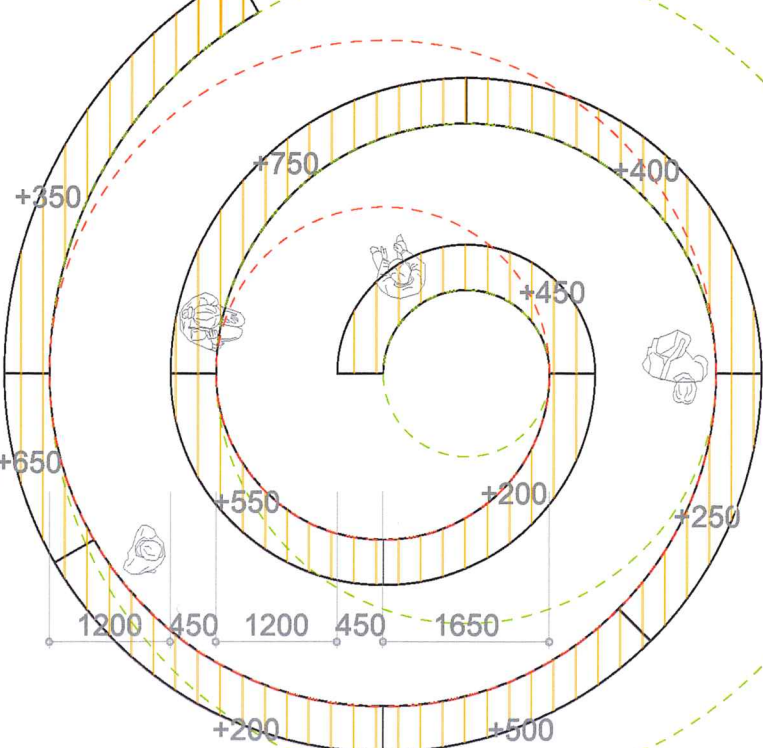
人が無意識のうちに惹かれ、引きつけられ、様々なストーリーが生まれていくような「未来の縁台を」ここでは提案したい。

## 3. diagram

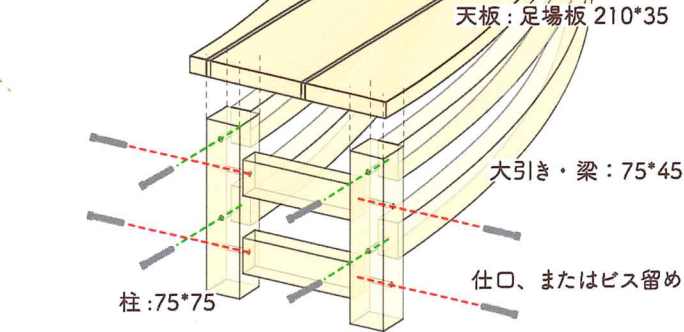
周回する線が等間隔となる「アルキメデス螺旋」に近似する作図方法を応用し、渦巻く縁台を作成していく。



## 4. 平面計画 平面図 scale 1:75



## 5. 詳細アイソノメトリック



## 6. 配置イメージ



## 4. 「あいだの場所」から「まちの縁が輪」へ

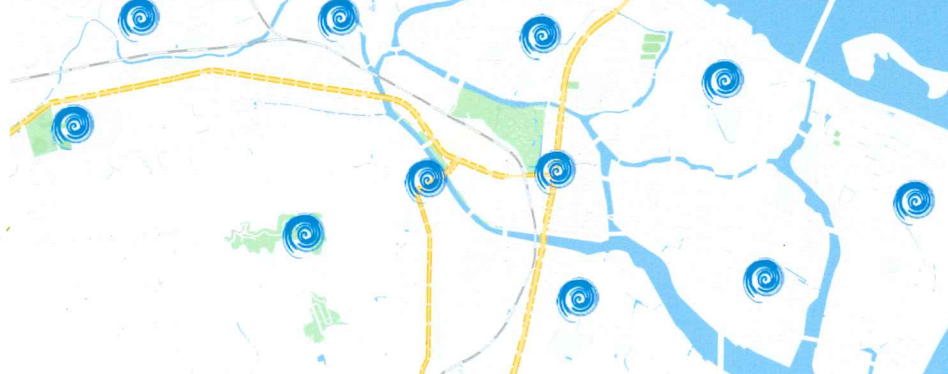
対象となる設置場所は日夜様々な人が訪れる徳島中央公園。ここにも、「あいだの空間」が点在していた。しかし子供は公園で遊び、ご高齢の方は近くの開けたベンチで談笑していた。



提案する未来の縁台は、「あいだの空間」が多世代の憩いの場所となるような「まちの縁が輪」へと昇華する小さなきっかけである。



## 7. 「渦巻く縁台」。これからの暮らしのかたち。



終わりのない渦は、それぞれの「あいだの空間」に応じた規模に対応する柔軟さを持つ。そして、渦巻く縁台はひょうたん島を超えてたちまち発生していく。渦はその力によって自然を巻き込みながら人々を引き寄せる。人々もそれに応えるようにささやかに関わ合い、モノ・コトと次第に混ざり合っていく。「まちの縁が輪」の誕生である。

それは、なんの変哲もない「あいだの場所」が人々の記憶に残る掛け替えのない場所であることの確かな証拠であり、渦巻く縁台の力だけではそのようなムーブメントは起こり得ないだろう。